第二十三規則　事故による油の流出

1　この第二十三規則は、第一規則28.8に定義する二千十年一月一日以後に引き渡される油タンカーについて適用する。

2　この第二十三規則の適用上、次の定義を適用する。

.1　「満載喫水（dS）」とは、船舶の長さの中央における型基線から当該船舶に指定される夏季満載喫水線に対応する水線までの垂直距離をいい、メートルで表す。この第二十三規則に関する計算は、満載喫水を超える熱帯喫水線のような乾舷（げん）の場合においても、満載喫水に基づいて計算される。

.2　「水線（dB）」とは、船舶の長さの中央における型基線から深さDsの三十パーセントに対応する水線までの垂直距離をいい、メートルで表す。

.3　「幅（BS）」とは、最高満載喫水線dS又はその下方における船舶の最大型幅をいい、メートルで表す。

.4　「幅（BB）」とは、水線dB又はその下方における船舶の最大型幅をいい、メートルで表す。

.5　「深さ（Ds）」とは、船舶の長さの中央における船側の上甲板までの船側の型深さをいい、メートルで表す。

.6　「長さ（L）」及び「載貨重量（DW）」とは、第一規則19及び23にそれぞれ定義するものをいう。

3　衝突又は座礁の場合における油汚染に対する適当な防護を提供するため、次の規定を適用する。

.1　載貨重量（DWT）五千トン以上の油タンカーについては、平均的な油の流出パラメーターは、次のとおりとする。

Cが二十万立方メートル以下の場合には、

OM≦0.015

Cが二十万立方メートルを超えるが四十万立方メートルを超えない場合には、

OM≦0.012＋（0.003／200,000）（400,000－C）

Cが四十万立方メートル以上の場合には、

OM≦0.012

載貨重量（DWT）五千トンと積載容量二十万立方メートルとの間の兼用船については、平均的な油の流出パラメーターは、次のものを適用することができる。ただし、計算は、構造上の強さの増加についての検討の後に、兼用船は、OM≦0.015を有する同じ大きさの標準的な二重船殻タンカーの油の流出性能と少なくとも同等の性能を有することを示すものと主管庁が認めるものでなければならない。

Cが十万立方メートル以下の場合には、

OM≦0.021

Cが十万立方メートルを超えるが二十万立方メートル以下の場合には、

OM≦0.015＋（0.006／100,000）（200,000－C）

この場合において、

OMは、平均的な油の流出パラメーターとする。

Cは、タンクが九十八パーセントに満たされた状態における貨物油の総容量とし、立方メートルで表す。

.2　載貨重量（DWT）五千トン未満の油タンカーについては、貨物タンクの長さは、次に定める長さ又は十メートルのいずれか大きい方の長さを超えてはならない。

.1　貨物タンク内に縦通隔壁を備えない場合には、

（0.5bi/B＋0.1）Lメートル

ただし、〇・二Lメートルを超えないこと。

.2　貨物タンク内に中心線縦通隔壁を備える場合には、

（0.25bi/B＋0.15）Lメートル

.3　貨物タンク内に二以上の縦通隔壁を備える場合には、

.1　貨物ウイング・タンクについては、

0.2Lメートル

.2　貨物センター・タンクについては、

.1　bi／Bが〇・二L未満のときは、

中心線縦通隔壁を備えない場合には、

（0.5bi/B＋0.1）Lメートル

中心線縦通隔壁を備える場合には、

（0.25bi/B＋0.15）Lメートル

.2　bi／Bが〇・二L以上のときは、

0.2Lメートル

4

.1　貨物ブロックの長さは、貨物油の運送のために配置されたすべてのタンク（スロップ・タンクを含む。）の船首及び船尾の末端の間の長さとする。

.2　この第二十三規則が貨物タンクに言及する場合には、貨物タンクは、貨物ブロックの長さの範囲内にあるすべての貨物タンク、スロップ・タンク及び燃料油タンクをいうものと了解する。

.3　船舶は、トリム又は横傾斜なしに満載喫水dSまで積載されているものと仮定する。

.4　すべての貨物タンクは、その容量の九十八パーセントまで積載されているものと仮定する。貨物油の名目密度（ρn）は、次のとおり計算する。

.4　biは、指定された夏期フリーボードに対応する水平面において中心線に対し直角に測つた船側から貨物タンクの外側の縦通隔壁までの最小距離とする。

次の一般的な仮定は、平均的な油の流出パラメーターを計算するときに適用する。

.1　貨物ブロックの長さは、貨物油の運送のために配置されたすべてのタンク（スロップ・タンクを含む。）の船首及び船尾の末端の間の長さとする。

.2　この第二十三規則が貨物タンクに言及する場合には、貨物タンクは、貨物ブロックの長さの範囲内にあるすべての貨物タンク、スロップ・タンク及び燃料油タンクをいうものと了解する。

.3　船舶は、トリム又は横傾斜なしに満載喫水dSまで積載されているものと仮定する。

.4　すべての貨物タンクは、その容量の九十八パーセントまで積載されているものと仮定する。貨物油の名目密度（ρn）は、次のとおり計算する。

$\rho n = 1,000\ (DWT) / C\ (kg/m^3)$

.5　油の流出量の計算上、貨物ブロックの範囲内にある各閉囲場所（貨物タンク、バラスト・タンク及び他の非油積載区域を含む。）の浸水率は、別段の証明が行われない限り、〇・九九とする。

.6　サクション・ウェルは、タンク配置の決定において、無視することができる。ただし、当該サクション・ウェルは実行可能な限り小さいものとし、かつ、hが第十九規則3.2に規定する高さとする場合においてウェルの底部と船底外板との間の距離が〇・五hを下回つてはならない。

5

.1　平均的な油の流出量は、側面損傷及び底面損傷について別個に計算するものとし、非次元の油の流出パラメーターOMを次のように組み合わせる。

次の仮定は、油の流出パラメーターを組み合わせるときに使用する。

OM＝（0.4OMS＋0.6OMB）／C

この場合において、

OMSは、側面損傷についての平均的な流出量とし、立方メートルで表す。

OMBは、底面損傷についての平均的な流出量とし、立方メートルで表す。